

株式会社 総合印刷高永

●代表者／代表取締役社長 高永 好政 ●創業／1964年9月 ●従業員数／88名
●所在地／神戸市東灘区御影塚町3-7-12 ●URL／www.takanaga.co.jp

面付け作業で効果発揮

顧客に高付加価値を提供



島津部長



岸崎課長

オフ輪ならびに枚葉印刷機を保有し、印刷物の製造販売を中心に多角的に業務を展開する(株)総合印刷高永。ハイエンドシステム「XMF Complete」、Webポータル「XMF Remote」を効果的に活用し、プリプレス工程の効率化を図っている。

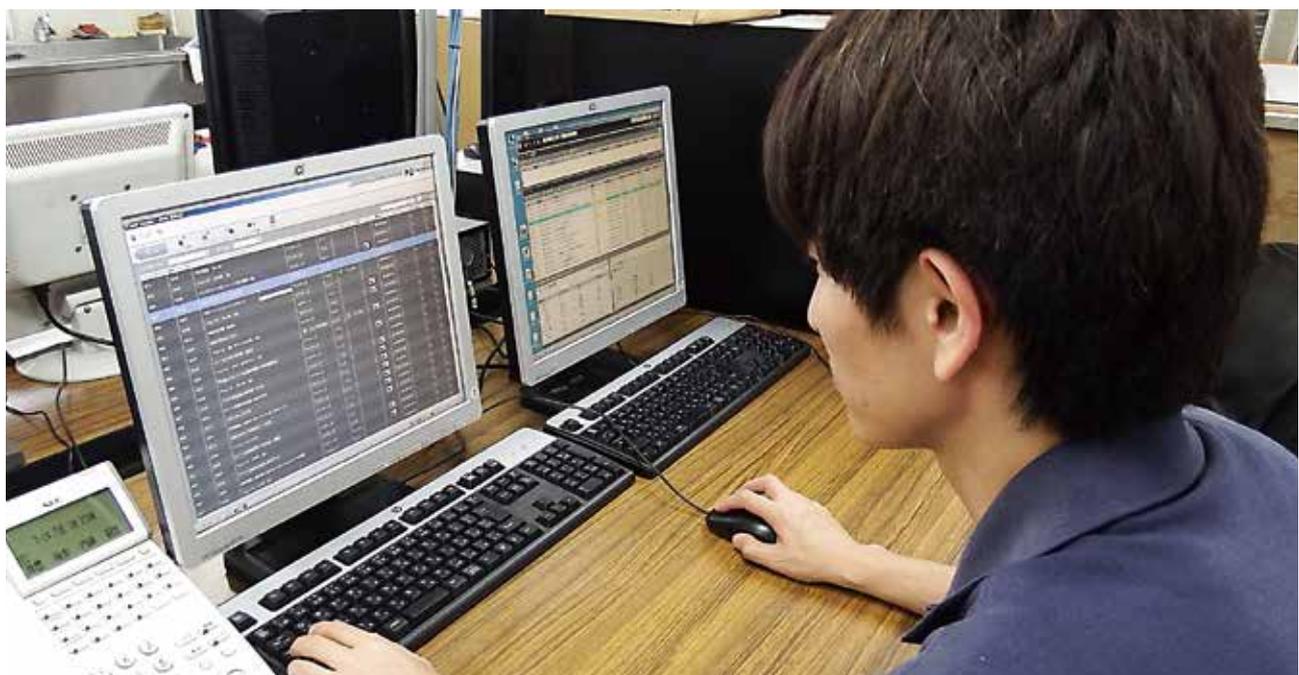
総合印刷高永は、1964年(昭和39年)の創業。B4からB1サイズまで6台のオフ輪を保有し、チラシやカタログなどの大ロット両面フルカラー印刷を行っている。また、枚葉印刷では、名刺から大判ポスターまであらゆるニーズに対応。

関連会社として、印刷業務全般を行う(株)大刷(神戸市東灘区)と、企画・制作会社(株)エーダッ

シユ(大阪市西区)がある。神戸市の本社ならびに大刷は印刷物製造が主体。大阪市のエーダッシユは広告の企画・デザインからインターネット関連まで、プランニング全般を業務としている。

もともとRIPシステムについては、富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株)(FFGS)の製品ではなく、他社製を使っていた。FFGS製品に関しては、フィルムやPS版など版材の使用が中心だったが、ワークフローソリューションの「PRIMOJET-XG」を使用していることもあって、RIP環境については信頼していたという。

XMF導入の経緯について、生産本部の島津義



顧客に付加価値を提供するXMF

規担当部長は次のように語る。

「1年ほど前、CTPシステムの入替えと同じタイミングで『Complete』を導入することにした。『Remote』に関しては、以前から提案を受けており、他社の成功例も認識していたので、投資額は大きかったが将来を見据えて一挙に導入した」

「Complete」導入に際しては、面付けシステムの状態や輪転機に対応できるかどうかなど、さまざまなテストを繰り返した。導入後半年ぐらひは、移行に手間取ったが、しだいに面付け設計がしやすく、使い勝手の良いことがわかり、いまではページ物の面付けのすべてを、「Complete」で行うようになっている。

生産本部データ処理課の岸崎祐司課長は、「大阪に拠点を置くエーダッシュとのやり取りで『Remote』は非常に活躍している。従来は電話で入稿のやり取りをしていたため、そのつど作業が中断した。『Remote』入稿の連絡や校正の承認もすべてリアルタイムでわかるので非常に楽になった。また、検版作業についてもRIP後のデータや校正紙の確認などで時間を費やしていたが、『Remote』で

は、RIP後のデータがすぐに表示されるので、安心感があり作業効率も断然良くなった」と効果を話している。

またチラシなど納期の短いものでは、朝、受けて昼に入稿、夜に下版、翌朝納品という流れの仕事も少なくない。「Remote」の良さはRIP後の下版データを顧客が確認できることで、多ページものや短納期もの多い同社の仕事内容に適合しているとしている。

岸崎課長は「Remote」について、「『Complete』で面付けまでセットしておき、校正の承認が得られると同時に自動的に作業がスタートする仕組みをつくれれば、かなり合理化できる」と期待を寄せる。

また島津担当部長は、「オフ輪が6台あるので瞬発力ではどこにも負けない。デリバリー力も負けない。営業的な視点から見ると、『Remote』は“売り”にできる商材。メーカーはもとより、印刷会社や制作会社とともにワークフローを構築しているので、実用的な仕組みが多く、顧客に付加価値を提案できる」とメリットを強調する。